

令和元年度 リハビリテーション訪問相談のアンケート結果について

(回答は 14 施設中 12 施設、22 ケース中 18 ケース、回答率 82%)

令和元年度は、14 施設への訪問相談を実施しました。このアンケートは、助言・指導内容をまとめた指導記録とともに送付し回答を依頼したものです。

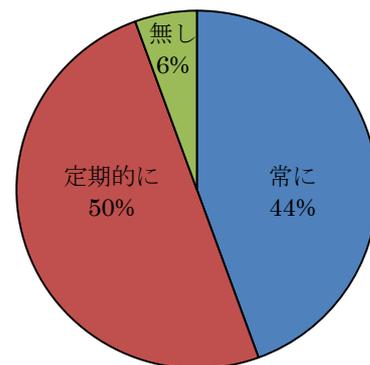
訪問してから概ね 3 か月までの状況を、助言内容の取り組み状況や成果についてご回答いただきました。

ご協力いただきましてありがとうございます。アンケート結果を参考に、今後とも、より良い助言・指導ができるように努めたいと思います。

設問 1：助言を受けた内容について施設または個人での取り組みの頻度はどうですか。

(回答：「常に」「定期的に」「無し」)

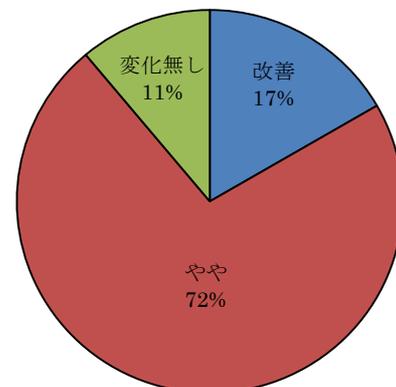
頻度	ケース
常に取り組んでいる	8
定期的に取り組んでいる	9
無し	1
合計	18



設問 2：設問 1 で回答した助言内容では、効果がみられましたか。

(回答：「改善した」「やや改善した」「変化なし」)

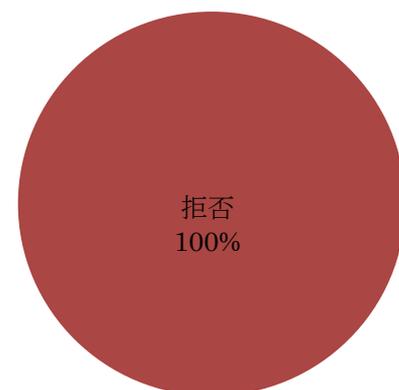
成果	ケース
改善した	3 車椅子テイルト式を使用したことで、姿勢が改善し、食事中にむせ込むことが少なくなった。
やや改善	13 関節可動域を意識したことで、これまで行っていた体操よりも大きな身体の動きができるようになった。
変化無し	2 麻痺した足に体重をかけて歩くように助言されたが、どうしても麻痺していない足に体重をかけてしまう。
合計	18



設問3：設問1で「無し」と回答し、助言内容に取り組みなかった理由を教えてください。

(回答：「助言内容が難しかった」、「本人が受け入れなかった」、「支援者側に時間的な制約があった」、「その他」)

理由	ケース	
受け入れ拒否	1	当初は本人も意欲的に取り組んでいたが、徐々に飽きてきてしまい取り組む回数が減った。保護者にも助言内容を伝えたが、改善までにはいたらなかった。
合計	1	



設問4：訪問指導についてご要望や気づいたことがありましたら、ご自由にお書きください。

- ・研修会を企画して欲しい(特にシーティング・ポジショニング)。
- ・身近に相談ができるため、とても心強い。
- ・福祉事業所と医療機関は連携が図れていないため、協議や会議などを企画して欲しい。
- ・助言はとても参考になった。今度は職員向けの勉強会をお願いしたい。